

公益社団法人日本青年会議所 2026 年度 基本方針

東北北海道ブロック協議会 会長 石井 恭平

ブロック協議会の 幸せな社会	<p>東北北海道ブロック協議会が目指す幸せな社会は、地域の自然や文化と調和しながら、住民一人ひとりが安心して暮らせる持続可能な社会の実現です。地域の温かい人間関係や共助の精神を大切に、多様な価値観を尊重し合う包摂的な社会を築きます。自然環境の保全と経済活動の調和を図り、地域資源を活用した持続可能な発展を推進します。また、教育や福祉の充実を通じて、子どもから高齢者まで誰もが幸せを感じられる環境づくりに取り組みます。さらに、地域の誇りと連帯感を高め、地域間の交流や協力を促進し、孤立や格差の解消を目指します。これらの取り組みにより、心の豊かさと地域の活力を育み、誰もが幸せに暮らせる未来を創造します。</p>
ブロック協議会の 役割	<p>東北北海道ブロック協議会は各 LOM の理事長をはじめとしたメンバーとの対話を深め、LOM の希望や展望を的確に把握します。会員数減少に対して具体的な支援策や育成プログラムを実施し、自立と未来志向を促進します。また、ブロック内 LOM の交流を促し、多様な情報や成功事例を共有できる機会を創出し、相互の理解と協力関係を強化していきます。さらに、次世代リーダー育成を目的としたブロックアカデミーで事業や例会の企画・運営の楽しさや意義を伝えていきます。これらの取り組みを通じて、地域の課題解決と未来志向のリーダーシップ育成を推進し、地域全体の発展と持続可能な運動の実現に寄与します。さらに、本会与連携し防災意識向上、カーボンニュートラル推進を家庭から普及運動を展開していきます。</p>
ブロック連携事業 (政策手法)	<p>1. FCP(Family Continuity Plan:家族継続計画)の導入に向けた運動の推進</p> <p>【背景】 毎年、防災意識の向上を目的とした事業を実施しており事業に関わった方々からは意識の高まりを感じられるものの意識が伝播し実際の行動に移せていない現状です。原因として、知識を与えるまでに留まり実際の行動に移すまでの機会の提供に至っていないことにあります。知識を深め、実際に備えたいくなる仕組みが必要です。</p> <p>【目的】 自分と家族を守る力を醸成することを目的とします。</p> <p>【手法】 まずは FCP の理解を深めるためにワークショップを開催し、東北北海道ブロック協議会メンバーに落とし込みます。その後家族会議を通じて災害時の連絡方法・避難経路・役割分担を明確にする実践を促します。さらに、チェックリストや事例集を作成し、学校・自治会と積極的に配布し、地域への普及を図ります。また、モデル家庭を創出し、SNS や広報を活用してその取り組みを発信することで、地域全体に波及効果を生み出します。</p> <p>2. 日常から始めるカーボンニュートラル推進事業</p> <p>【背景】 多くの企業が温室効果ガスの排出抑制や削減に取り組み、家庭においても浸透してきている言葉ではありますが、家庭においては排出全体の約 15%を占めており、小さい数字ではありません。日常生活においてカーボンニュートラルの成果は見えにくくを習慣化することが難しいことにあります。成果の見える化から習慣的に取り組める状態にする必要があります。</p> <p>【目的】 カーボンニュートラルに関する会員一人ひとりの行動変容を促すことを目的とします。</p> <p>【手法】 まず、ブロック協議会として日常から始めるカーボンニュートラル行動指針を複数作成します。その</p>

	<p>後各 LOM に行動指針を共有し、一つを選んでいただき、その一つを LOM として 1 年間取り組んでいただきます。その後 LOM メンバーが家族に持ち帰り家庭へと波及させていきます。会員一人ひとりの行動変容を促し、そこから家庭へと繋げていきます。また、カーボンニュートラル推進に取り組む LOM の成功事例をブロック内で横展開し、地域特性に応じた活動を支援します。本運動を通じて、次世代に誇れる持続可能な地域づくりを実現し、日本青年会議所の使命を地域から力強く推進してまいります。</p> <p>3. ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用</p> <p>【背景】 青年会議所には様々な育成の仕組みがありますが、LOM 単位で育成カリキュラムを使用する LOM はブロックには多くありません。使い方や依頼の仕方がわからない、つながりがないなどの原因があります。出会いの提供から多くの LOM が青年会議所への理解を深められる環境にする必要があります。</p> <p>【目的】 LOM に新たなリーダーをつくることを目的とします。</p> <p>【手法】 組織を活性化させるためにはメンバーが共通の価値観を持つことが不可欠ですが、現状は JC 在籍歴が短いメンバーが多く、必ずしも価値観が統一できていない状態にあります。まずは各地域に共通して適用できる育成カリキュラムを、協議会と連携して実施する必要があります。 JAYCEE 育成カリキュラムの運用支援を行い、共通の価値観をもったリーダーたる人財を育成することで、組織を前進させることを目指します。</p>
<p>ブロック協議会 独自の事業</p>	<p>1. 徹底的な LOM 支援の実施</p> <p>【背景】 会員数の減少や経験年数の不足など、運動を展開することに対する課題が山積し、将来に不安を抱えた LOM が多く存在します。東北北海道ブロック内で多くの運動を展開するためには、早急に東北北海道ブロック協議会一丸となって解決に向かわなければなりません。</p> <p>【目的】 未来を描くことのできる LOM に昇華することを目的とします。</p> <p>【手法】 常に LOM とは対話を行い、支援が必要な場合は LOM とともに、LOM の未来、地域の未来を描き、課題に合わせて会員拡大、事業構築支援、人財育成支援、研修支援などの個別具体的な背策を行っていきます。</p> <p>2. ブロック交流事業</p> <p>【背景】 近隣の LOM メンバー同士の交流の機会が減少し、地域ごとの密な連携や情報交換の機会が少なくなり、結果として地域のニーズや課題に対する理解や対応が遅れる可能性があります。他 LOM メンバーとの積極的な交流を促進することが必要です。</p> <p>【目的】 LOM 間の交流を促し、LOM 間の連携を強化することを目的とします。</p> <p>【手法】 東北北海道ブロックの LOM メンバーを無作為にチーム分けし、ミッションを通じてメンバー間の交流、家族との交流を促進することを目的としています。ミッションは地域や活動をテーマにした多様な内容で構成し、参加者のコミュニケーションと情報交換を活性化させていきます。</p>

	<p>3. ブロックアカデミーの実施</p> <p>【背景】 入会 3 年未満のメンバーが増えてきている東北北海道ブロック協議会では、議案構築方法や例会の意義、マナーなどの LOM が長年積み上げてきた理念が浸透することが難しくなっている現状において、アカデミー生を中心として青年会議所の基礎となる理念やビジョンを明確に知る機会が必要です。何故なんのために青年会議所が存在するかを知る機会が必要です。</p> <p>【目的】 青年会議所の基礎となる理念やビジョンを明確に知る機会創出し、未来の格好良い JAYCEE を育成することを目的とします。</p> <p>【実施】 青年会議所が何を目指し、何をもちたしてくれるのかを理解し、そのために何をしなければいけないのかを一から学ぶ機会を提供します。</p> <p>4. 東北北海道ブロック大会の実施</p> <p>【背景】 東北北海道ブロック協議会の垣根を越えたコミュニケーションと地域の課題解決に向けた運動を進めていくためには、東北北海道ブロック協議会内の LOM メンバーが一堂に会し交流する場、各 LOM が効果的な運動発信を行う意識を醸成することが必要です。</p> <p>【目的】 ブロック協議会や LOM の運動を発信し、次年度へつなげることを目的といたします。</p> <p>【実施】 1 年間かけて行ってきたことを各 LOM や地域に発信することで次年度へのリレーションを行い、持続的に運動が展開されるブロック協議会を創出いたします。</p>
<p>ブロックによる LOM 支援の実施内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各理事長と連携し、LOM との相互理解を図りながら、情報を速やかに提供する。 2. ブロックアカデミーを中心にワークショップ(JC プログラム含む)を定期開催する。 3. ブロック会長公式訪問(全 LOM 巡回)を開催し、LOM へ適切な支援をする。
<p>前年度より引き継いだ重点連携 LOM</p>	<p>LOM 名:留萌青年会議所</p> <p>LOM 名:深川青年会議所</p> <p>LOM 名:根室青年会議所</p>